**普光寺**

普光寺は大牟田で最も古い仏教寺院であり、天台宗密教の一派である。820 年に三池家の庇護を受け、僧侶円仁（794～864）が創建した。円仁は死後、慈覚大師として知られるようになった。その後、この寺院は 3 つの塔中寺院と 7 つの僧坊を持つ大規模な複合寺院へと発展した。平安時代後期に地滑りで崩壊した。その後寺院の一部分のみが再建された。

現在の本堂は江戸時代（1603 年～1867 年）に建てられた。この寺院の主な信仰対象は、12 世紀後半に作られた薬師如来の木像と、1429 年に京都で彫られた開基の慈覚大師の木像である。 いずれも福岡県の指定文化財となっている。 境内には、五輪塔、石仏、鎮守社、墓石もある。

現在この寺院は、本堂への参道にそびえる巨大な八重紅梅で知られている。この梅は「横になった龍の梅」（臥龍梅）と呼ばれ、樹齢は 350 年以上であり、高さはわずか 3 メートル程だが、斜面に 25 メートル以上も伸びている。枝は地面に触れた場所で根付き、幹から離れた場所にも広がっている。

この寺院には他にもさまざまな種類の梅が植えられており、2 月中旬から 3 月下旬にかけては

梅の名所として人気がある。開花期間中は入場料が必要である。